

河川及び流域の現状	
流域の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>小石川は、流域面積約6.44km<sup>2</sup>、静岡県管理延長2.2kmの二級河川である。県道境橋より上流は、焼津市・藤枝市が各市境を隔てて管理する準用河川となる。</li> <li>流路は、藤枝市築地地先を起点とし、多くの雨水幹線と合流しながら東海道本線とほぼ並行して東に向かい、焼津漁港に注ぐ。</li> <li>小石川流域のほぼ全域は、大井川や瀬戸川の運ぶ土砂によって形成された扇状地であり、大井川や瀬戸川の旧河道に沿って発達した自然堤防（微高地）が点在している。</li> <li>小石川流域に位置する焼津市・藤枝市の気候は太平洋型の気候区分に属し、駿河湾沿岸地域特有の穏やかな気候となる。</li> <li>流域近傍の静岡観測所（気象庁）では、平均気温は17.0℃と温暖で、年平均降水量は2,347mmと、全国平均の1,664mmを上回る。</li> <li>小石川流域の大部分は市街地であり、近年、市街地の割合は約92%を占めるまで増加している。一方、昭和51年は田畑など農地が約40%を占めていたが、農地の割合は減少している。</li> <li>焼津市史によると、小石川流域で人間の生活が営まれるようになったのは、古墳時代以降と記録されている。現焼津神社の周辺で発掘された宮之腰遺跡でみられるように、大井川によって形成された微高地上に大規模な集落が形成されるとともに、その後背湿地で水耕が営まれるようになった。</li> <li>小石川は大井川用水の一部であり、藤枝市末広の柳久保頭首工で栃山川から分かれ、東海道本線に沿って東進し、藤枝市や焼津市内の水田に用水が送られている。</li> <li>流域の大部分は市街化区域となり、市街化が進んでいる。</li> <li>気候変動の影響により降雨量の増加、海面水位の上昇が予測されている。</li> </ul>
治水事業の沿革と現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事実施基本計画および全体計画は策定されていない。</li> <li>過去の洪水被害を契機に、静岡県が焼津市と共に、河川の治水安全度向上と川に親しめる水辺空間を創出するため「みずべプラン21」を策定し、めがね橋からタケル橋の区間が完成（平成2～6年）している。</li> <li>県独自の取組みとして「総合治水整備計画」や「総合的治水対策アクションプラン」、「水災害対策プラン」を策定し、河川管理者及び流域自治体が一体となった治水対策を推進している。</li> <li>主要洪水のうち7件が、準用河川区間からの越水とその他支川で発生した内水被害、令和4年台風第15号においては、県管理区間においても溢水が発生しており、近年では内水被害に加え、河川からの外水被害も発生している。</li> <li>流下能力は、県管理区間および準用区間とも年超過確率1/2未満の区間もある。</li> <li>計画津波高は、必要施設高をT.P.+3.5m、焼津市沿岸部で最大約150haの浸水が想定されている。</li> <li>最大クラスの津波は、最大浸水範囲は約1430haと想定されている。</li> </ul>
河川との利用及び住民との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>栃山川の大井川用水柳久保頭首工から取水された農業用水が小石川に分水されている。</li> <li>焼津西小学校や焼津中学校の近くに桜並木が整理されており、地域住民の散策路として利用されている。</li> <li>焼津市の市民団体（2団体）が、県のリバーフレンドシップ制度を活用して小石川の美化活動を行っている。</li> </ul>
河川環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質について環境基準のD類型に指定されており、BOD75%値は八雲橋で1.3mg/l、松葉橋で2.6mg/lで環境基準を下回っている。</li> <li>河道内は落差工や取水堰等の横断工作物が多数あり、水生生物の生息環境が分断されている。</li> <li>重要種はニホンウナギ（環境省：EN：絶滅危惧ⅠB類）が確認されており、外来種としてオオカナダモが確認されている。</li> </ul>

水系の特徴（着眼点）	
治水	<ul style="list-style-type: none"> <li>小石川流域では平成3年台風第17～19号の出水により浸水家屋が22棟、さらに平成16年豪雨、平成22年豪雨、平成25年前線、令和元年台風第19号、令和4年台風第15号により家屋の浸水被害が発生した。</li> <li>早急に治水対策が必要な小石川流域の治水安全度を高めることを目的として、静岡県、焼津市及び藤枝市による「小石川・黒石川水災害対策プラン」を策定し、流域が一体となった浸水被害軽減の取組を進めている。</li> <li>現在の流下能力は年超過確率1/2の区間もある。</li> <li>流域全体で市街化が進行しているため、水災害リスクが高い。</li> <li>第4次地震被害想定は、現在の施設高を上回る津波高となっており、今後、漁港計画と連携し、津波対策が必要である。</li> <li>災害時の要配慮者に対応した適切な避難支援等が重要となる。</li> <li>近年、高潮や豪雨による被害も発生しており、今後の気候変動の影響を考慮した治水計画を立案する必要がある。</li> </ul>
利水	<ul style="list-style-type: none"> <li>焼津市・藤枝市では、公共下水道の整備が進められており、小石川における水質は環境基準（D類型）を満足している。</li> <li>上流域から河口域にかけてそれぞれの生息環境に適した種が確認されている。</li> </ul>
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>焼津市の中心部を流れる身近な水辺空間として、散策等に利用されている。</li> <li>リバーフレンドシップ制度を活用した地域の美化活動が実施されている。</li> </ul>

河川整備の基本理念

藤枝市と焼津市の中心市街地を貫流する小石川流域では、市街化の進展や現在の社会情勢、今後の気候変動の影響を踏まえた河川改修等により、洪水、津波等による被害の防止または軽減を図る。

更に、流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う流域治水を推進し、藤枝市と焼津市のまちづくりと調和した、安全・安心な地域を支える川づくりを目指す。